

西神苑

西神苑は鎌倉時代（1185～1333）に栄えた禅宗に着想を得ています。禅宗は、茶道から造園まで様々な日本文化に影響を与えました。西神苑の中央で目を引くのが、白い虎の池を意味する「白虎池」です。池を囲むようにある遊歩道には、ツツジの木が植えられています。白虎は、西の方角を守護しています。西神苑は、木々に囲まれた静かな庭園で、さりげなく置かれた石は、自然と一息つけるように配されており、自分と向き合うことができます。

小道の脇にある平らな岩は、座って寛いでいただけるようになっています。開かれた庭園に配された平らな岩は、自然に水際へと誘います。絶妙に置かれた岩や石は、訪れる方の意識を庭園の特定の風景に魅きつけるために精緻に配置されたものです。松の木と、水面に映る枝、そして池の反対側の植え込みに真っ直ぐに立ち上がった三つの岩は、お釈迦様と二柱の菩薩を表しています。

白虎池の向こう側にはアイリスの花が植えられており、6月には、睡蓮の花が咲きます。庭園内にはおよそ200種類ものアイリスの花が植えられています。